

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年10月31日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：吉野長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから10月31日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○吉野総務課長 報道官の吉野です。

原子力規制委員会の広報日程について御説明します。

明日の定例会、第41回原子力規制委員会ですが、議題は3件です。

まず、議題1ですが、九州電力株式会社川内原子力発電所1号炉及び2号炉の運転期間延長認可及び高経年化技術評価等に係る原子炉施設保安規定の変更認可が議題となっております。

川内原子力発電所の1号炉及び2号炉は、運転開始後40年を迎えますので、現行の高経年化規制に基づいて、最大20年の運転延長について認可をする運転延長認可制度、それから、10年ごとに認可を受ける高経年化技術評価制度の2つの制度について、保安規定の変更認可が申請されております。今回の委員会は、それを審議するものでございます。

審査会合で行われた審査の内容に加えまして、6月に原子炉等規制法が改正されておりますので、それに伴います長期施設管理計画の認可、これから受けることとなりますが、それとの関係や、標準応答スペクトルの取り入れの審査との関係についても、委員会で説明が行われる予定となっております。

議題の2は、1相開放故障事象に対する国内原子力発電所等の対応に関する今後の方針です。

まず、1相開放故障事象ですが、発電所までの外部電源は、ほかの送電と同じで交流で送られてきております。交流電源は、一定の周期で電圧のプラスとマイナスが変化しますので、3つ交流電源を組み合わせて電圧をゼロにすることができるという仕組みを活用して3本の電線で送電されてきます。この発電所の外部電源も、この3本電線で送電されてくるわけですが、2012年にアメリカの発電所で、3本のうち1本が通常に送電できなくなって、最終的に原子炉が止まるという事象が起きております。これを1相開放事象と呼んでおりますが、このトラブルの原因は、アメリカでは外部電源が架線でつり下げた形で設置されていることが多くて、そのつり下げている碍子が破損したことで電線が垂れ下がって電圧が不安定になって、1本が正常に送電できなくなったということで、この事象が起こったということが分かっております。

原子力規制委員会では、この1相開放事象の知見を国内のプラントの安全対策に取り入れるということのために、平成26年に設置許可基準規則の解釈を変更しております。この中で、この変更によって1相開放事象というのを検知するというのと、検知した場合に手動で対応していくということを事業者のほうに求めております。

また、この対応について、信頼性をより向上するという観点から、この1相開放事象を自動で検知するための装置の設置を事業者に求めるかどうかということについて、引き続き検討するというようにしてまいりました。この検討のために、原子力規制庁では、これまで事業者が行っている検知技術の開発や、その検証の状況についてATENA（原子力エネルギー協議会）から報告を受けてきております。明日の委員会では、その状況を委員会に報告するとともに、1相解放事象については、これまでの検討の結果、人が巡視点検することで検知をして、手動操作で対応するというように、国内の発電所では十分対応できるという結論に至っておりますので、検知装置の規制要求は不要という判断について、委員会にお諮りして議論をいただくというものでございます。

議題の3は、ALPS（多核種除去設備等）処理水の海洋放出に関するIAEA（国際原子力機関）レビューミッションの概要です。

IAEAレビューミッションは、10月24日から27日にかけて行われてきております。規制委員会は、初日の午後にALPS処理水の放出に係る使用前検査の状況、放出前後の保安検査の状況、また、海域モニタリングの実施状況などについて説明を行っております。最終日に、IAEAでは、海洋放出が計画どおり特段問題なく実施されていると結論づけておりますが、このレビューの概要について御説明をするというものでございます。

続きまして、審査会合、会見などの11月6日の案件です。

8番目の案件で、第24回（EDG24時間連続運転）に係る事業者意見の聴取に係る会合でございます。対応は遠山技術基盤課長です。

議題は、EDG（非常用ディーゼル発電機）24時間連続運転に関する事業者意見ということになっております。

原子力発電所に設置されている非常用ディーゼル発電機については、海外で24時間の連続運転の試験を行っているという事例がございます。日本でも同様に24時間運転をして試験を行うべきかどうかということについて、事業者の意見聴取を行うというものでございます。

現在、国内のプラントでは、非常用発電機は非常に安全上重要な設備だということで、定期検査のときに分解点検を実施し、また、運転中も月1回、大体2時間程度の負荷運転をするという試験を行っております。会合では、ATENAから、海外での取組状況や、実際に国内のプラントで24時間運転を実施した結果が示されまして、この24時間連続運転の試験を取り入れるかどうかということについて議論をされる予定となっております。

次に、11月9日、原子力規制国際アドバイザーと原子力規制委員会との意見交換会合です。これは全委員が対応されます。

原子力規制委員会は、設置法附則に基づいて4名の専門家に原子力規制国際アドバイザーを委嘱しております。委嘱の詳細については、9月27日の定例会で報告を行っておりますが、アメリカの原子力規制委員会元委員長のメザーブ氏、チェコ原子力規制庁長官のドラボヴァ氏、フランス原子力安全局前委員のジャメ氏、カナダ原子力安全委員会委員長のヴェルシ氏の4名が御就任されております。今回は、この国際アドバイザーと2つの議題について議論がなされます。

1つは、技術支援機関と規制機関との関係について、2つ目が、放射性廃棄物の埋設に係る規制運用についてとなっております。それぞれについて委員との意見交換が行われまして、最後に1時間、同時通訳を入れた公開の意見交換の場が設けられております。そこで議論の内容などが皆さんに分かる状態になるかと思えます。

11月10日は、原子炉安全専門審査会核燃料安全専門審査会の火山部会の第12回会合が開かれます。議題は2つです。対応は、佐藤核物質・放射線総括審議官です。

まず、議題の1では、発電用原子炉設置者及び核燃料施設事業者の火山モニタリング結果に関する原子力規制委員会の評価についてが審議されます。

原子力規制委員会は、原子力施設の設置許可にあたって火山の影響評価を行っておりますが、その際に、設計対応が不可能な火山事象が十分小さいと評価された火山であっても、258万年前から現在までの期間の間に、設計対応が不可能な噴火があったということ否定できない火山が発電所敷地から160km以内にある場合については、運転期間中にも事業者が火山のモニタリングを行うということを求めています。

議題1では、該当する原子力施設である川内原子力発電所、玄海原子力発電所、日本原燃の再処理施設などについて、火山モニタリングの結果を踏まえまして規制委員会の評価について、火山部会のほうで再度議論いただくという予定となっております。

議題2は、火山事象に関する知見等に係る情報の収集分析結果についてです。

ここでは第61回技術情報検討会で報告されました火山事象に関する知見を報告し、御議論いただく予定となっております。第61回技術情報検討会では、大規模噴火を起こす可能性のある火山の判断に資する地球化学的指標についてと、テフラの粒径、落下速度及び堆積速度のリアルタイム検出に関する新たな知見についてが議論されております。この議題の中身については、定例会でも報告が既にされております。その2件について、今度は炉安審・燃安審の火山部会のほうで再度議論が行われるというものでございます。

次に、13番目、第1202回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合です。対応は石渡委員です。

日本原子力発電所発電株式会社敦賀発電所2号炉の敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性についてが審議されます。

敦賀発電所2号機につきましては、9月22日の審査会合で補正申請の概要について、既に説明を受けております。この敦賀発電所2号機については、まず、焦点になっておりますK断層の活動性評価と、K断層と原子炉建屋直下の破碎帯との連続性について、まず議

論をするという流れとなっております。今回は、そのうちK断層の活動性評価についての議論を行うというものでございます。

最後に、その他の案件でございますが、11月6日から11月9日にかけて、お台場でICRP第7回放射線防護体系に関する国際シンポジウムが開催されます。山中委員長と伴委員が対応されます。

ICRPは、放射線防護に関する学識者の国際組織です。日本語では国際放射線防護委員会と訳されております。この国際シンポジウムですが、日本での開催は今回が初めてということになっております。

山中委員が初日に挨拶のために出席され、伴委員は8日の夕方に、放射線防護のジャスティフィケーション、被ばくのメリットと被ばくのデメリットを比較して、十分利益がある場合のみ放射線の曝露を正当化するという考え方のことですが、その議論を行うセッションで議長として参加される予定となっております。

本日の案件は以上でございます。

#### <質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—